

『BSCを活用した学習システムの構築及び 新たなスポーツ文化の創造に向けて』

久保 幸平⁽¹⁾

1. はじめに

NPO 法人 BIWAKO SPORTS CLUB (以下 BSC) は、元々は志賀中学校サッカー部OBにより結成された社会人サッカーチーム、志賀クラブ(1974年設立)を発展的に解消し、地域の小学生年代からシニア年代までの独立したサッカーチームが互いに協力支援する ASSOCIATION (アソシエーション) 型スポーツクラブとして2003年3月に設立された。その後、2003年4月に開学した本学を得ながら、地域スポーツ文化のさらなる発展を目指し、2006年2月から総合型地域スポーツクラブとして新たに歩みはじめた。そして、社会的地位の確立と継続したクラブ運営を目指して、NPO 法人格を2009年3月に取得した。地域に根ざした一貫指導体制と、スポーツを生涯スポーツとして楽しむ環境を確立させ、日本一大きな湖、琵琶湖と比良山系に囲まれた大自然の中で、健康維持増進者からトップアスリートを目指す選手まで多志向の会員に対応できるよう協力・支援プログラムを提供していくことで、新たなスポーツ文化を創造することを理念としている。

総合型地域スポーツクラブとして歩みはじめた当初は、種目数も限られていたが、現在では14種目24事業(表1)を実施するにいたっている。現在、滋賀県内の総合型地域スポーツクラブは設立準備クラブも含めると約50クラブある。その中においてBSCは、助成金や補助金を一切受けず、自主事業による収入のみで運営をしている数少ないクラブの1つである。その大きな要因となっているのが、本学の施設及び人材の協力的支援である。BSCが実施している全24事業のうち、本学の施設及び人材の双方の協力を得て実施している事業として6事業、人材のみの協力を得ている事業が12事業ある(表1-2)。これらの事業収入は、クラブ全体の収入額の約80%(2010年度BSC収支予算書より)を占めている。こういった活動は、BSCの重要な運営基盤になると同時に、本学の学生にとっては貴重な実践の場となっていると考えられる。総合型地域スポーツクラブの設立当初から、BSCの運営に関わる教員及び学生は述べ200名以上にのぼる。しかしながら、本学とBSCの関係性は明確にはされておらず、協力体制が

(1) スポーツ開発・支援センター研修員

確立されていないのが現状である。ここでは、学生にとってBSCの活動がどういった影響を及ぼしているのかを明らかにしながら、本学とBSCとの協力体制の確立を通して、新たなスポーツ文化の創造に向けた参考資料にしたい。

2. 方法

(1) 調査方法：本調査は質問紙法によって実施した。

(2) 調査期間：平成22年12月

(3) 調査対象：BSCのスクール事業にスタッフとして参加している学生（以下 学生スタッフ）31名である。

表1 BSC2010年事業計画一覧表

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所
1. スポーツスクール等事業	木戸サッカースクール	H22.4～H23.3 毎週水曜17～18時	木戸小G
	木戸キッズサッカースクール	H22.4～H23.3 毎週水曜16～17時	木戸小G
	和邇キッズサッカースクール	H22.4～H23.3 毎週木曜16～17時	和邇市民G
	キッズサッカーアカデミー	H22.4～H23.3 毎週月曜17～18時	和邇市民G
	BSC Academy	H22.4～H23.3 毎週木曜17～18時	和邇市民G
	GKスクール	H22.5～H23.9 期間内第1・3土曜	びわこ成蹊スポーツ大学
	U-13スキルアップアカデミー	H22.4～H23.3 毎週月曜18～19時	和邇市民G
	陸上スクール	H22.4～H22.3 毎週土曜14～16時	びわこ成蹊スポーツ大学
	バスケットボールスクール	H22.4～H22.3 毎週水曜17～18時	びわこ成蹊スポーツ大学
	フットサルスクール	H22.4～H22.3 毎月第1・3土曜	びわこ成蹊スポーツ大学
	BSC 幼児体操教室	H22.9 以降	木戸支所
	テニス教室	年間4回（9月,10月,11月,12月）	びわこ成蹊スポーツ大学
2. スポーツ大会 催事等事業	BSC フォーラム	未定	びわこ成蹊スポーツ大学
	総合型クラブスポーツ交流大会	H22.12	米原市内
	野球教室	H22.9 以降	びわこ成蹊スポーツ大学
	ウォーキング教室	H22.9	びわスポ大学周辺地域
	BSC サマーキャンプ	H22.8	比良げんき村
3. 健康体力 相談・体力測 定事業	ポコリスラット	① H22.4～H22.7 ② H22.9～H22.11 ③ H23.1～H23.3 期間内毎週金曜（全10回）	木戸コミュニティーセンター
	貯金講座	H22.7～H22.9 全2回	真野支所
4. 体育事業 受託事業 施設管理	派遣事業	H22.4～H23.3	守山高校 守山北高校 びわスポ大学 BIWAKO.S.C. ジュニアユース
5. その他 他事業	グッズ販売（Tシャツ）	H22.7～H23.3	クラブハウス
	ふれあい志賀祭り	H22.8	和邇市民G
	研究事業	H22.4～H23.3	びわこ成蹊スポーツ大学等

本学の施設及び人材の協力を得ての事業	本学の人材の協力を得ての事業
①陸上スクール ②バスケットボールスクール ③フットサルスクール ④BSC 体操教室 ⑤テニス教室 ⑥野球教室	①木戸サッカースクール ②木戸キッズサッカースクール ③和邇キッズサッカースクール ④キッズサッカーアカデミー ⑤BSC Academy ⑥G Kスクール ⑦U-13スキルアップアカデミー ⑧BSCアウトドア教室 ⑨ウォーキング教室 ⑩BSCサマーキャンプ ⑪貯金講座 ⑫ふれあい志賀祭り

表1-2 本学の協力を得ての実施事業

学年/性別	男	女
1 回生	5	5
2 回生	3	3
3 回生	5	2
4 回生	4	4
計	17	14

表2 対象者一覧

調査対象者の内訳は表2に示した。

(4) 調査内容：学生スタッフへの調査内容は図1に示した通りである。

3. 結果及び考察

(1) BSCに関わるきっかけを尋ねた結果は、図2に示した通りである。「指導に興味があるから」28名、「知人の誘い」11名、「小遣いが目的」3名、「地域貢献になるから」2名、「その他」が6名であった。指導に興味があるとからと答えた学生が最も多かった。その他と回答した学生の中には、「子どもが好きだから」、「将来的に教員等の子どもに携わる仕事をしたいから」といった回答があった。

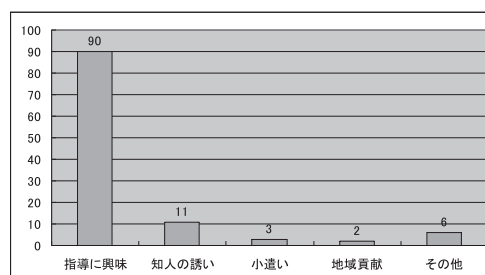


図2 BSCに関わるきっかけを尋ねた結果

(2) BSCの活動は、大学で学んだ理論の実践の場として有効だと思うかと尋ねた結果は、図3に示した通りである。「そう思う」61%、「ややそう思う」29%、「あまり思わない」10%であった。ほとんどの学生がBSCの活動は、本学で学んだ知識や理論を実践する場になっていると答えた。

(2-2) BSCの活動を除いた場合、学んだ理論を実践する環境は十分に提供されているかどうかと尋ねた結果は、図3-2に示

①BSCに関わるきっかけは何でしたか？ (※複数回答 可)
②BSCの活動は、大学で学んだ理論の実践の場として有効だと思いますか？
②-2 BSCの活動を除いた場合、学んだ理論を実践する環境は十分に提供されていると思いますか？
③BSCの活動は大学にとって必要だと思いますか？
③-2 それはなぜですか？(自由記述)
④BSCの活動は地域貢献につながっていると思いますか？
⑤-2 BSCの活動を除いた場合、大学の地域貢献は十分だと思いますか？

図1 学生スタッフへの調査内容

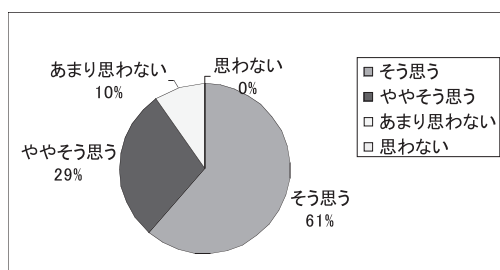


図3 BSCの活動は、大学で学んだ理論の実践の場として有効だと思いますか？

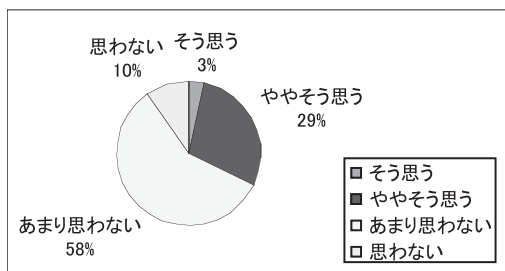


図3-2 BSCの活動を除いた場合、学んだ理論を実践する環境は十分に提供されていると思いますか？

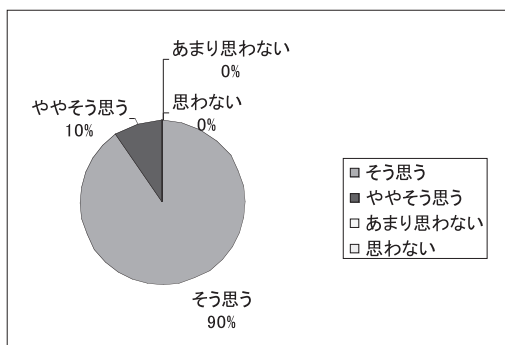


図4 BSCの活動は大学にとって必要だと思いますか？

した通りである。「そう思う」3%、「ややそう思う」29%、「あまり思わない」58%、「思わない」10%であった。選択している授業、学年、部活動への参加の有無などの条件によって、学んだ理論を実践する場を得ることは個人差があると考えられる。また、所属するコース、研究室も影響していると考えられる。

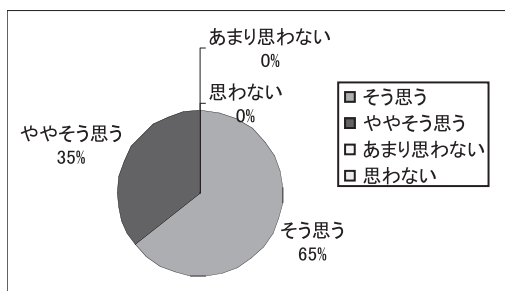


図5 BSCの活動は地域貢献につながっていると思いますか？

(3) BSCの活動は大学にとって必要だと思うか尋ねた結果は、図4に示した通りである。その理由について自由記述で回答してもらった内容は図4-2に示した通りである。「そう思う」90%、「ややそう思う」10%であった。全ての学生が、本学にとってBSCの活動が必要であるということに肯定的な意見を示した。その理由について自由記述では、実践の場としての有効性と必要性についてと、地域貢献に関する内容のものが多く傾向にあった。

(4) BSCの活動は地域貢献につながっているかどうか尋ねた結果は、図5に示した通りである。「そう思う」65%、「ややそう思う」35%であった。全員が肯定的な意見を示し、BSCの活動を通して地域の方々と直にコミュニケーションが図れることで、地域貢献につながっていると実感することができ、地域貢献を知るいい機会になっていると考えられる。

(4-2) BSCの活動を除いた場合、大学の地域貢献は十分かどうかを尋ねた結果は図5-2に示した通りである。「そう思う」6%、「ややそう思う」39%、「あまり思わない」55%であった。この結果も

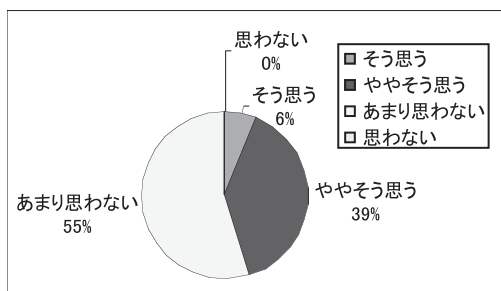


図5-2 BSCの活動を除いた場合、大学の地域貢献は十分だと思いますか？

- ・将来指導者や子どもと関わる仕事に就きたいと考えている学生は必ずいると思うので、実践する場所を提供すべきだと思うから
- ・教職を取っている人にとっていい経験ができる環境だと思うから
- ・地域との交流になるから
- ・自分の競技力向上にもつながるから
- ・大学が田舎にある中で、地域との交流や親睦を深めるのに適している
- ・人それぞれ目標があると思いますが、自分にとっては夢に向かうために必要なスキルを学べるので、BSCで得るものが大きいからです
- ・自分のスキルアップのためになるから
- ・勉強のためになるし、地域貢献のためにもなるから
- ・座学で学んだことを、実践で発揮する場だと思うから
- ・子どもたちの触れ合いで学ぶことや、指導するのは大切だから
- ・社会に出ていく中で、現場の指導というのは絶対的に必要であり、その経験ができて良いと思うから
- ・実践という場で経験を積むことが何よりも学べるから
- ・BSCは、徐々に知名度も増し、地域にも必要とされているから。また、ゼミ単位でしか子どもに関われる場がないから、例えば栄養系にも興味あるけど子どもにも関わりたい学生はBSCが必要だと思うから
- ・大学内で、コーチや指導を実践的に行うことができるのは、たくさんの経験や感じれるものがあるので、将来指導者を目指す人はもちろん誰もが体験することができるのは、役に立つと思うから
- ・大学で学んだことを実践する場に適しており、実践した結果から反省して次につなぐことができると思うから
- ・地域貢献も含めて、指導力や自分の運動への理解を再確認できる場であるから
- ・せっかくスポーツ大学なのだから、それを活かして競うだけでなく、楽しさを実際に子どもたちと共有していくことが学生の成長にもつながるから
- ・地域とのつながりに欠かせないと思う
- ・大学で学んだことを実践で活かせるから
- ・実践を通してでしかわからないこともたくさんあり、とても良い経験になっていると思うからです
- ・理論や知識だけでなく、参加者とのコミュニケーションなどにより、社会性や人間力が養われると考えているから
- ・実践の場となっているし、良い経験になるから
- ・地域貢献になっているので
- ・実践の場が少ないから
- ・大学としても地域の貢献で必要だと思うし、教師を目指している人にとっては勉強の場になる
- ・地域との交流の場としても必要だと思うし、大学生の学びの場としても必要だと思うから
- ・指導ということの難しさをナマで感じれるから
- ・BSCの場だからこそ学んだことが多いと思います
- ・地域で子どもたちが運動できる場所が必要だと思うから
- ・大学と地域が連携することに意義があると思う。意義を感じてる人もいるから
- ・大学で学んだことを見せれる場であり、地域活性にもつながると思うから
- ・大学と地域が関わりを持つためには必要だと思う
- ・地域貢献も含め、実践的な環境が少ないから

図4-2 BSCの活動が大学にとって必要だと思う理由一覧（自由記述）

問2-2と同様に、学年、所属コース及び研究室などで個人差が生じるものと考えられる。また、大学周辺の地域、市内、県内といったように、地域の定義が定まっていなかったことも影響していると考えられる。

4. まとめ

学生にとってBSCでの活動は実践の場と

して有効であり、地域貢献にも携われるいい機会になっていると考えられる。しかし、あくまで活動範囲は指導の実践のみであり、学生からは指導に関するより専門的な知識を得るための研修会を実施してほしいとの意見が多数寄せられた。現在のところBSCでの活動は、経験値を増やせる場であるものの、より専門的な知識を深めるフォローが

不十分であることが課題だといえる。一方で、BSCでの活動を除いた場合、実践の場が不足していると感じている学生が今回の調査では半数以上の70%（21名）を占めたことから、学生に実践の場を提供するうえで、BSCは貴重な団体であると考えられる。これらのことから、本学とBSCで連携して役割分担を明確にしていくことで、学生にとってより良い学びの場を構築できるのではないだろうか。理論や知識を本学の授業で学び、そこで得たものをBSCの活動を通して実践していくことで、専門的知識及び経験を有する人材の育成につながるはずだ。また、学生にとって学びの場である現場は、地域の人々からするとスポーツができる良い機会となっていることから、地域貢献につながっている。しかし、これらの実現にはいくつかの課題がある。

まず1つ目は、活動範囲が指導現場のみに限られていることだ。現在のBSCの活動では、BSC事務局で企画したものに対して、その講師及び指導スタッフとして、必要に応じて教員及び学生に協力を得て運営がされている。よって、学生が関わるのは指導現場のみになっている。これは、企画の段階で学生に関わってもらい、活動中のケガに対する対処や予防、心理面、栄養面でのサポートなどを可能とするプログラムを構築することで、より多くの分野で学ぶ学生たちに参加してもらうことが望ましいと考えられる。

次に2つ目は、本学とBSCの関係が明確にされていないことである。これからより

多くの人材に関わってもらいながら、学びの場として内容の充実を図るにあたり、それぞれの役割を明確にすることは不可欠なことであるが、BSCは本学にとってどのような位置づけによる団体なのかがはっきりせず、現在のままではBSCが認知してもらえず十分な協力体制が築けないであろう。本学とBSCの双方にとって、学生の育成は重要なことである。優れた人材の輩出、あるいは活動の充実を図るためだ。協定を締結するなどして、共通の理念と理解をもって学生にとってより良い学びの場を構築していくことが必要ではないだろうか。

最後に3つ目は、今回の調査の対象がBSCに関わる学生に止まったことから、その他大勢の教員や学生はどのように考えているのかが把握できていないことだ。BSC以外での活動を通して実践の場は十分に確保できている学生がいたり、あるいは指導などの現場に関わりたい意向があるものの、情報不足で何もできないままの学生がいたりといったことが考えられる。BSCをどのような位置づけにして、どのような役割を担う団体にするかを決定するにあたり、BSCに関わる、関わらないに限らず広範囲に調査していく必要がある。また、地域住民の方々にも調査を実施することで、どのようなニーズ等があるのかを明確にすることも、充実した地域貢献を可能とするために必要だといえる。

上記課題を解決していくことで、より良い学生の学びのシステム（図6）を構築することが必要だと考えている。人材の育成

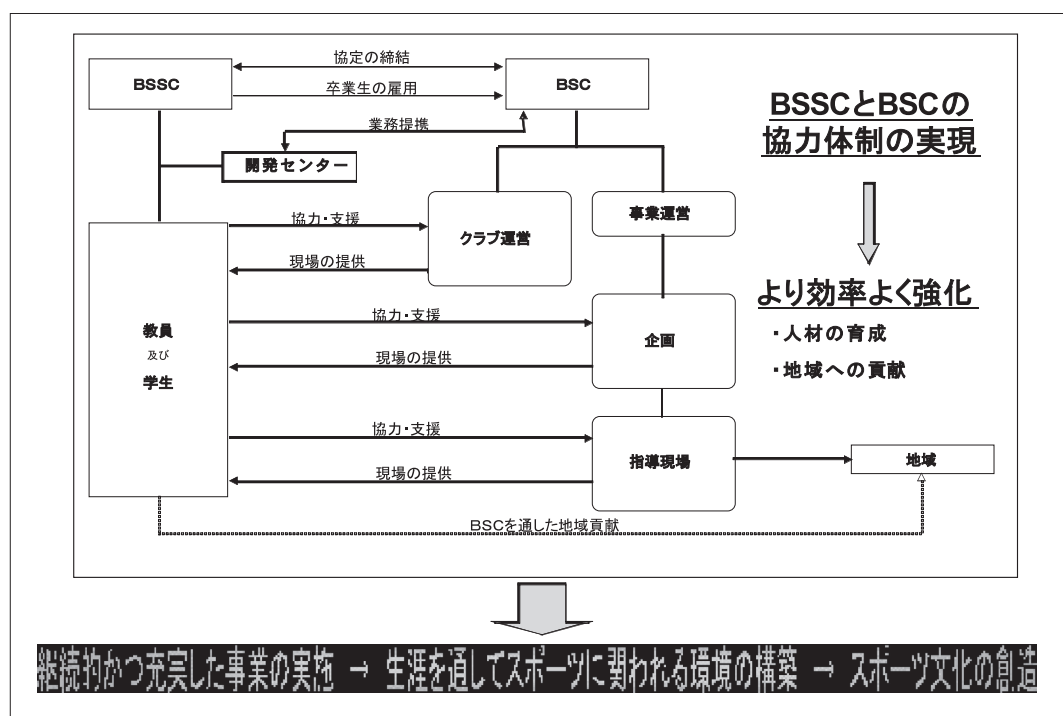


図6 学びのシステムについて

システムが確立されれば、BSCの活動の充実につながることで運営規模の拡大に発展し、より多くの卒業生を職員としてBSCで雇えるようになるからである。それは、活動の継続と充実化を可能とし、システムの強化につながると考えられる。より優れた人材による充実した事業の実施が実現されれば、地域の方々にとってスポーツをすることが生活の一部となり、新たな文化の創造につながるのではないだろうか。

参考文献

海老島均：地域スポーツクラブづくりが創出する（準）公共空間，スポーツ開発・支援センター年報（2006）第3巻，第1号，p.75-82

海老島均，辻憲一郎：BIWAKO SPORTS CLUBの現状と課題，スポーツ開発・支援センター年報（2007）第4巻，第1号，p.61-68

久保幸平：BSCを活用した，学生にとって有効的な学習システムの構築に向けて，スポーツ開発・支援センター年報（2008）第5巻，第1号，p.27-35